

耳鼻咽喉科プログラム

一般目標(オリエンテーション)

耳鼻咽喉科領域は耳・鼻・口腔・咽喉頭の他に唾液腺・頸部リンパ節・気管も診察対象となる。脳・眼・皮膚・消化器と隣接した部位である事から他科連携も重要となる。研修期間中に全領域の網羅は時間的に不可能と考えるが、外来・入院における症例に対する研修目標が達成出来るように積極的に取り組んでいただきたい。

行動目標

B-1医学・医療における倫理性	診断にあたり有益性と患者の身体的負担を考慮し検査を計画出来る
B-2医学知識と問題対応能力	耳鼻咽喉科特有の手技を用いて診察を進められる
B-3診療技能と患者ケア	患者様に対して親身に対応する
B-4コミュニケーション能力	患者様・ご家族との面談を通じてインフォームドコンセントを行う
B-5チーム医療の実践	メディカル・コメディカルとの連携し、患者様の病状に影響する諸問題を多角的に理解する
B-6医療の質と安全の管理	医療行為に伴う副損傷を事前に想定し対応出来る準備が出来る
B-7社会における医療の実践	患者様ご家族の意思を尊重し、ニーズに応じた医療を提供する
B-8科学的探究	文献検索し、疾患に対する知識を自ら得る
B-9生涯に渡って共に学ぶ姿勢	カンファレンスでプレゼンテーションのポイントを明確に示し、論理的なディスカッションを行う

研修の方略(LS)

週間スケジュール	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	手術
午後	病棟回診・検査	手術	手術	専門外来	手術
	(カンファレンス)			(カンファレンス)	

病棟業務:①耳鼻咽喉科入院患者の担当医として上級医・指導医とともに診療を行う。②手術症例については病歴聴取・診察所見記載・手術術式の理解を求める。③担当症例のレポートを作成し発表する。自ら傷病について文献検索し、鑑別疾患・検査法・治療法についてポイントを整理しわかりやすく発表すること求める。

手術:手術術式の把握・術中助手としての役割の理解・術後処置内容の理解を求める。

カンファレンス:入院担当症例のサマリーを作成し発表する

その他 緊急時対応・学術活動等:オンコール対応時に可能であれば来院しオンコール担当医師と診療を行う。研修期間中に学会がある場合には参加を促す場合もある。

経験可能な症候(経験すべき症候29症例中9症候)		
1	ショック	○ 耳鼻咽喉科領域感染症から敗血性ショックに至る危険な症例の病態理解
2	体重減少・るい瘦	
3	発疹	○
4	黄疸	
5	発熱	○
6	ものの忘れ	
7	頭痛	
8	めまい	○ 前庭機能異常に伴う眩暈の診察・診断
9	意識障害・失神	
10	けいれん発作	
11	視力障害	○ 副鼻腔炎の急性増悪・眼窩骨折に伴う視力障害・眼球運動障害の診断
12	胸痛	
13	心停止	
14	呼吸困難	○ 上気道狭窄の評価と対応
15	吐血・喀血	
16	下血・血便	
17	嘔気・嘔吐	○ 前庭症状に伴う嘔気嘔吐の対応
18	腹痛	
19	便通異常(下痢・便秘)	
20	熱傷・外傷	○ 外傷性側頭骨骨折・鼻骨骨折等の対応
21	腰・背部痛	
22	関節痛	
23	運動麻痺・筋力低下	○ 末梢性顔面神経麻痺の診断と治療
24	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	
25	興奮・せん妄	
26	抑うつ	
27	成長・発達障害	
28	妊娠・出産	
29	終末期の症候	
経験可能な疾病・病態(経験すべき疾病・病態26疾病・病態中1疾病・病態)		
1	脳血管障害	
2	認知症	
3	急性冠症候群	
4	心不全	
5	大動脈瘤	
6	高血圧	
7	肺癌	
8	肺炎	
9	急性上気道炎	○ 急性咽喉頭炎・喉頭蓋炎
10	気管支喘息	
11	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
12	急性胃腸炎	
13	胃癌	
14	消化性潰瘍	
15	肝炎・肝硬変	
16	胆石症	
17	大腸癌	
18	腎盂腎炎	
19	尿路結石	
20	腎不全	
21	高エネルギー外傷・骨折	
22	糖尿病	
23	脂質異常症	
24	うつ病	
25	統合失調症	
26	依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)	

経験可能な臨床手技	研修医1年次			研修医2年次		
	単独可能	単独不可		単独可能	単独不可	
		事前 確認	指導医 立会		事前 確認	指導医 立会
体位変換						
移送						
皮膚消毒						
外用薬の貼布・塗布						
気道内吸引・ネブライザー						
静脈採血						
胃管の挿入と抜去		○			○	
尿道カテーテルの挿入と抜去						
注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)		○			○	
中心静脈カテーテルの挿入)						
動脈血採血・動脈血)		○			○	
腰椎穿刺						
ドレーンの挿入・抜去		○			○	
全身麻酔・局所麻酔・輸血		○			○	
眼球に直接触れる治療						
①気道確保	○			○		
②人口呼吸(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気含)	○			○		
③胸骨圧迫	○			○		
④圧迫止血法						
⑤包帯法						
⑥採血法(静脈血、動脈血)	○			○		
⑦注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)	○			○		
⑧腰痛穿刺						
⑨穿刺法(胸腔、腹腔)						
⑩導尿法						
⑪ドレーン・チューブ類の管理		○			○	
⑫胃管の挿入と管理		○			○	
⑬局所麻酔法						
⑭創部消毒とガーゼ交換	○			○		
⑮簡単な切開・排膿						
⑯皮膚縫合						
⑰軽度の外傷・熱傷の処置		○			○	
⑱気管挿管		○			○	
⑲除細動等						
⑤検査手技の経験						
血液型判定・交差適合試験						
動脈血ガス分析(動脈採血を含む)						
心電図の記録						
超音波検査		○			○	